

### 10月10日開催 地域・職場革新懇事務室長会議

10月10日、地域・職場革新懇事務室長会議を開催し、16地域革新懇(うち1地域は再開準備会)5職場革新懇が参加しました。

各地域・職場から発言の発言は、参議院選挙後の情勢の新しい流れの中で憲法問題学習会、TPP学習会などの学習会、原発ゼロ集会や消費税反対署名などの奮闘が語られ、この運動の中でいままでにない人との共同が広がっている発言もありました。

また、統一戦線をめざす革新懇について、もっと学習し広めていかなければいけないとの意見も出されました。

また、革新懇運動についても論議をされました。革新懇の役割をもっと広く知ってもらうことが必要。会員をもっと増やしていこうとの意見が出されました。



10月10日、地域・職場革新懇事務室長会議

### 知る権利を奪うな！監視社会を作るな！ 秘密保護法案に反対し集会やデモ

10月27日、「秘密保護法に反対する愛知の会」主催の学習会



秘密保護法反対の取り組みが各地で！

10月16日には、愛知県弁護士会主催「秘密保護法」反対集会とデモ行進。参加者は150人(市民の参加も)。愛知県弁護士会の旗がたなびき「秘密社会は、ゴメンだ！」と元気よく行進しました。また10月27日には、秘密保護法に反対する愛知の会主催市民集会に400人が参加。

「秘密保護法は、戦争準備するための法案」と毎日新聞記者の臺宏土さんの基調報告がありました。

「憲法と平和を守る愛知の会」も10月26日に、名古屋栄で宣伝・署名行動を行い秘密保護法案を廃案にと訴えました。

そもそも「日本文化」とは一体何だろう。先日本文化を壊す」というフレーズを目にした。その時、そもそも日本文化とは一体何を指すのか、ふと気になった。「文化」と辞書で引くと、「人間の生活様式の全体」と出る。生活自体そのものが文化なのである。洋式トイレやフローリング、街コン



木内 舞さん

名古屋にてTPP反対デモを主宰

近ごろ  
思う  
こと  
19

### 「TPPは日本文化を壊すとは？」

は、そもそも3歳では言葉、5歳では知恵、7歳では歯を神から授かることを、神に感謝する神事であった(地方により異なる)では現在の七五三はというと「神に感謝する神事」というよりも「子供の素敵な写真を撮る」「家族での思い出づくり」といった娯楽要素

に車社会、家庭菜園に染髪、facebookもみんな文化なのである。では私がイメージする「日本文化」とは？日本語、舞妓さん、歌舞伎、商店街、温泉、演歌、夏祭り、七五三、貴、神社、カルタ、こたつ...。ではこの「文化」とは何を目的としたものなのか。例えば七五三

の多い催し物という目的となつてきている気がする。このように日本文化とは時代とともに形を変えながら残ってきた。また、日本文化の一つのファッションについて、これは素敵な文化である反面非常に経済的な要素が強い。こういったすでに浸透している文化を見ると、文化とはその時代に生きる人々の価値観を映し出すものなのではないかと分かった。

先日の「TPPは日本文化を壊す」というフレーズは、「スピート」「合理化」等と「日本文化にある目に見えない大切なもの」とのバランスが保てなくなつた時、文化が壊れていく、つまり人々の価値観が壊れていくものなのではないかと思つた。

\*木内舞さんは、2013年4月号に「何が大切なことを考えて行動する生き方を」とインタビューに登場していただきました。

### 第8回代表世話人会の報告

(10月18日)

#### 情勢討議から

(1)核兵器禁止へ 核不拡散条約(NPT)再検討会議準備委員会、国連総会を経て「いかなる理由があっても核は使用してはならない」決議に日本政府も100カ国をこえる賛成の前に賛成する動き。この条約が実現すれば 中国・北朝鮮・インド・パキスタンも含めて東アジアの非核化が進む。全国の政令指定都市で唯一未参加であった名古屋市が平和首長会議に参加を表現した。

(2)ブラック企業・消費税増えなど共同の取り組み拡がる 共産党は議案提案権を行使してブラック企業規制法案を国会に提出した。厚労省でも「若者を使い捨てにするブラック企業」の対応をしようとした。事態はきわめて深刻。高卒で非正規の就職はかつてなかった 残業代なし、最賃制も守られていない リクナビ(就職紹介企業)が企業に代わって選別している「めでたく」就職しても有利子奨学ローン500~600万の借金を背負うなど。

消費税中止に向けて全国2000万人の力を結集する。5%から8%になったら困る人々の意思表示の場を来年2月にもつ(愛労連・愛商連など)。フクシマ原発事故の影響と放射線による人体の影響、汚染地域、非難を続けている人々の今後や支援などを考えるシンポが12月21日、名大IB情報館で予定。

#### 今後の取り組み

(1)全国革新懇交流集会(11/16~17・大阪)情勢にふさわしく企画される交流会(職場革新懇シンポ、憲法学習交流会、青年革新懇交流会など)に向け60名の参加を  
(2)当面の課題(消費税、改憲阻止、原発、TPPなど)安倍政権は国民の暮らし、平和、民主主義との間に大きな矛盾をもたらす。共同を広げる革新懇運動の意義を論議

(3)憲法と平和を守る愛知の会を再開 国会開催中、栄で毎週土曜日宣伝活動を行う。  
(4)2014年連続憲法講座に向けて2013年総括、2014年6回開催予定。  
(5)2014年総会に向けて(12月7日)総会の内容などを検討。

次回代表世話人会議 11月6日(水)  
次々代表世話人会議 11月28日(木)

生活保護受給者が地域の活動に参加したり、何らかの形で活躍できる場をつくることできれば、住民との間に顔の見える関係ができ、報道によって作られたイメージを変えていくきっかけになるのではないかと考えます。

新たな大規模作戦の手段に使われるのではないかと懸念も指摘されています。生活保護受給者が増加していることから、なるべく保護を受けさせないようにしよう、生活保護基準を切り下げて保護費を減らそうという動きがみられますが、貧困問題を解消することこそ必要です。生活保護が増えていることを問題にするのではなく、生活保護を受給しなければならぬほど生活に困窮した人たちが増えていることを問題にすべきです。

この8月に生活保護基準が切り下げられました。3年かけて約670億円削減するかつてない大規模のものです。生活保護基準は、最低賃金や住民税非課税限度額の算定、就学援助、介護保険料負担、公営住宅家賃減免など多くの制度に連動し、これら諸制度の利用者に深刻な影響が及ぶ可能性があります。現状でも苦しい受給者の生活がますます苦しくなるだけでなく、幅広い市民生活にも影響してきます。

つまり、生活保護基準を引き下げるといことはこの国のナショナル・ミニマムが引き下げられるということを意味するのです。生活保護を受けている人たちの話ではなく、みんなの問題であるといつことを分かってもらうことが大事です。

朝日訴訟もそうでしたが、生活保護の改善のためには当事者が声を上げていくことが大事です。この8月の生活保護基準切り下げに対しては、全国で1万人の人が不服審査請求をおこないました。受給者の中には生活保護を受けていることを恥かしいと感じたり、お世話になつていて考えている人が多く、審査請求をすることをためらう方も少なくありませんでした。そんな中、1万人の人が声を上げたことは画期的なことだと思えます。

また、審査請求では共同作業所連合会や社協協などいろいろな分野で活動する人たちにも協力をしてもらいました。基準切り下げ問題は、幅広い市民生活に影響を及ぼすだけに、運動の輪を広げていく可能性も持っているのではないかと感じます。

昨年の生活保護のバッシング報道をみて、またまた貧困に対する理解が日本社会の中に浸透していないと感じました。派遣村の頃は貧困の問題について同情的な空気があったのですが、芸能人の一件で一転してハッティングが始まり、まだまだ浸透していないことを痛感させられました。学生たちと話をしていても、自助努力とか自己責任の考え方が世の中に根付いているのを感じます。人間は一人で生きていくように見えて、本当は周りの人や社会の支えがあつて生きているはずなんです。しかし生活保護のよつ、目に見える形で社会に支えられている人には、攻撃が向けられます。生活保護ハッシングの背景にも、そのような考え方があつたのではないかと考えます。

報道の影響もあつて、生活保護受給者と言えばパチンコをしていたりお酒を飲んでいたりと悪く見られるイメージが広がっています。ギャンブルや飲酒に走つてしまふ背景には、他に楽しみがなかったり、人や社会とのつながりが断ち切れてしまつていたりすることもあるのですが、なかなか理解されません。